

第7話「話は終わっていないのに…」

課題	言いたいことを考えているのに、話が終わったと思われる
ストラテジー	「今考えている」ということを相手に伝える
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・言いたいことを考える時間を作ることができる ・言いたいことをどう言うか考えている間、相手が待ってくれる

<課題>

言いたいことを考えているのに、話が終わったと思われる



太田に「苦手な食べ物はあるの?」と聞かれたスアンは、すぐに「ないかな」と答えましたが、実はまだ言いたいことがありました。でも、言いたいことを頭の中で考えているうちに、太田はスアンが言いたいことを全部言ったと理解し、話を次に進めてしまいました。それはスアンが言いたいことを考えているときに、だまってしまうので、スアンがまだ何か言いたいと思っていることが太田に伝わらなかったからです。それで、スアンは本当に言いたいことが言えませんでした。

<ストラテジー使用場面>



太田: 職場のみんなとは仲よくやれてる?

スアン: はい。あの、うーん…そうですね…

モニカは仲よくしてくれます。

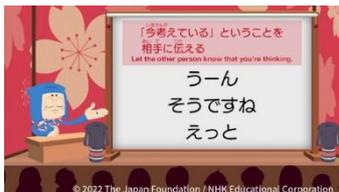
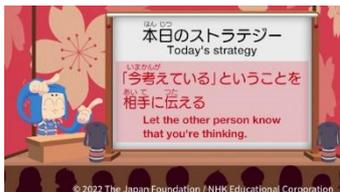
太田: 日本人スタッフとはどう?

スアン: えっと…そうですね…

すみれさんにはたくさん教えてもらいました。

<スアンが使ったストラテジー>

「今考えている」ということを相手に伝える



スアンは言いたいことを考えているときに、「えっと」「そうですね」などの表現を使いました。それを聞いた太田は、スアンがまだ何か言おうとして考えていると理解し、スアンが話し続けるのを待ってくれました。

<どんなストラテジー？>

このストラテジーは、^{かいわ}会話をうまく^{おこな}行うためのストラテジーの一つです。^{かいわ}会話において、「沈黙(=^{ちんもく}だまってしまう)」は、^{はな}話し手が^て交代するためのサインだと言われています。^{かいわ}会話をしているとき、^{おも}言いたいことがすぐに^{おも}思いつかなかったり、^{ひょうげん}ことばで表現できなかつたりすることがありますが、^{おも}そのようなときに^{おも}だまってしまうと、^{あいて}相手は「この人は^{おも}言いたいことを^い言い終えたのだ」「^{つぎ}次は^{じぶん}自分が^{はな}話し始めなければいけない」と^{かんが}考え、^{つぎ}次の話を^{はな}始めてしまいます。

このストラテジーを使うと、「^{つか}今自分は^い話すことを^{かんが}考えている」「^{はな}まだ話を^{つづ}続けようと思^{おも}っている」ということを^{あいて}相手に^{つた}伝えることができます。そのため、^{あいて}相手が^{はな}話し始めるのを^ま待つてくれる^{かのうせい}可能性が高くなります。また、^{たか}何を^な言え^{おも}ばいいか^{おも}思いつかなかったり、^{つか}使いたいことばが^{おも}思いつけなかつたりすると^{はな}話すのを^{おも}あきらめがちになりますが、^{ひょうげん}この表現を使えば、^{つか}すぐに^{おも}あきらめなくていいという^{こうか}効果の一つと言えるでしょう。

<どうやって使う？>

スアンが^{つか}使っていた「えっと」「そうですね」といった^{ひょうげん}表現は「^よフィラー」と呼ばれています。^{おも}言いたいことがすぐに^{ひょうげん}ことばで表現できないときなどに^{ちんもく}沈黙を^{ひょうげん}うめるための表現です。スアンのように、^{ひと}人に^{はな}話しかけられたときの^{はなし}話は^{はな}はじめや^{とちゆう}話している途中に^{すこ}少し^ま間を^{おも}置きたいときなどに^{つか}使うと^{こうか}効果的です。

フィラーは^{つか}使い方の^{かた}ルールがあまり^あきびしくありません。「えっと」だけで^{しよう}使用することもできますし、「えっと、そうですね。」のように^く組み^あ合わせても^{つか}使うことができます。「えっと、そうですね。うん、まあ、そうですね。」などと^{ふくすう}複数^あ組み^{つか}合わせて^{つか}使うこともできます。ただし、^{なが}あまり^{あいて}長く^ま相手を^ま待たせると、^{かいわ}会話の^{わる}テンポも^{わる}悪くなりますので、^く組み^あ合わせるのも^あほどほどに^あしておきましょう。

また、この^{ひょうげん}表現は、「そうですね、えっと。」のように^{じゆんばん}順番を^い入れ^か替えても^{だいじようぶ}大丈夫です。さらに、「えっと」「そうですねえー」などのように^{おと}音を^{つか}伸ばして^{おも}使うことも^{おも}多いです。

<もう一步> 自然にフィラーを使うために

スアンが使っていたような短いフィラー(「えっと」「そうですね」)以外にも、「なんていうんですかね」「どう言ったらいいかな」などのセンテンスのようなものも、フィラーとしての機能を担うことがあります。いつも同じ表現を使うと、話し方のクセのように見えてしまうこともあるので、いくつかバリエーションを持っておくことより自然な感じに聞こえるでしょう。

また、フィラーをたくさん使いすぎるとかえって発話がスムーズに聞こえないこともありますので、使い過ぎに注意が必要です。「えー、今日は、うーん、みなさんと、えー、そうですね…」などのように文節ごとに入れてしまうのは使い過ぎです。特にスピーチやプレゼンテーションなど一人で話す場面では、フィラーはあまり使わない方がスムーズな話し方に聞こえます。

フィラーは人によって、そして、場面によって使われ方も変わります。周りの人がどんな場面でどんなフィラーを使っているかを観察してみて、効果的で自然なフィラーの使い方を見つけてください。